

学術ポータル担当者研修レポート

1.発表資料の状況設定

教官の会議の冒頭に、5分ほどの時間を頂いて、リポジトリ広報とコンテンツ収集への協力を呼びかける。

2.発表内容抄録

リポジトリとは学術情報の保管庫である。

リポジトリに論文の情報を保管すると、恒久的に保管をすることができ、誰でも、どこからでも自由にアクセスすることができるようになる。

そのメリットは、誰にでも論文を読んでもらえる直接の影響だけではなく、論文の引用数があがることや知名度が上がる可能性、また大学にとっては情報公開の一環ともなる。是非、登録への協力をお願いしたい。

研究当日の講師からの助言（質問）

- ・自分の持っている論文のファイルはタイプの違う3つに分かれているけれども、これでも登録できるのか。
- ・北大の例を見せてもらったが、当大学でもあのようなものができるのか。

プレゼンテーションの改訂：講師・受講生などからの質問は、研究者としての擬似質問のみだったので、プレゼンに大きな改訂はしなかった。

3.リハプレゼンの概要

平成18年11月7日午後6時

医学部某講座図書室

参加者：某講座所属の研究者7名、図書館情報課から2名

4.感想【 】内はこちらからの回答

- ・リポジトリが、論文の電子的保管庫であることが判りにくい。出版社とは別に電子的に保管をするという部分をはっきりと、説明よりもむしろ図示した方が良い。口頭でそのことは説明していたが、スライドでも一致したものを見せて欲しい。特に、著者、出版社、リポジトリの関係がわかるようなものが見たい。
リポジトリの説明なので、冒頭にそれはあった方が良いのではないか。
- ・必要としているデータが、最終原稿データであることももっと明らかにスライドで表現すべき。
- ・出版後に、改訂データがあった場合はどうするのか？【論文情報のページにその旨を

記載し、別なファイルを開覧するように明示できるはず】

- データのファイル形式が違うものがいろいろある場合はどうするのか。例えば、出版社の電子投稿の規程に従って、文章はテキスト、画像はフォトショップ、表はエクセルということもあるけれども、編集してくれるのか。【PDF ファイルが基本なので、できればまとめて頂いてから PDF で欲しいところだが、ファイルの編集などはその都度のご相談となると思う】
 - PDF ファイルでも、閲覧可能でもダウンロード不可などに制限をかけていることがあるが、そういう形でもリポジトリに登録できるのか。【自由な利用のための公開が原則と（図書館としては）思っているが、これから出来上がる委員会などでそのような方針は決定されるでしょう】
 - 出版社のリポジトリへの著作権許諾情報とは、どのように確認をするのか。また日本の出版社の許諾率が低いというのは、どうしてか。【外国の出版社では、著作権に許諾の方針などを Web で明記している。しかし、国内の出版社では著作権についての認識が薄く、決めていない出版社がほとんどなので、問い合わせしてから著作権について検討をしている状態であると聞いている。リポジトリ登録についてもこの事業は始まったばかりなので動きが鈍く、先行してリポジトリを立ち上げた大学は、この部分でも苦労していると聞いている】
 - 実際に動いている（他大学の）リポジトリの中身を見せて欲しい。
 - 紙ベースでしか残っていない原稿しかない場合はどうするのか。原稿も残っていない古い論文の場合は、どうなのか。【残っている紙の原稿は、著者版を公開してもよいと出版者から許可があるなら、PDF をこちらで作成する。著者版掲載の許可しか下りず、手元に原稿が残っていない場合、もう一度著者が原稿を（電子的に）作ってくれば、それが著者原稿になるので、即掲載できる】
 - 実際に投稿した先の情報も表示されているのか。【掲載雑誌の情報は表示している】
 - 投稿してアクセプトされたら、出版社より先に公開してもいいのか。【出版社の見解による】
 - 雑誌に投稿したけれども、リジェクトされた論文も登録してよいのか。【リポジトリ委員会の方針によると思う】
 - 公開するなら、校正後の綺麗になったもの（出版社版）を載せてほしいような気がする。出版社によって、英語そのものが修正される（ネイティブでなければ書けないような言い回しに）ことがあって、出版社がそういう部分（レイアウトだけではなく）に費用を掛けているので、（出版社版を無料で公開するのは）難しいことはわかるけど…。
- また、そのような出版社版と著者原稿が違うことはわかるようになっているのか。綺麗なものを公開したいと思って、出版された後に、出版社版のように著者が修正して公開しても良いのだろうか。【著者が自分の原稿に手を入れる分には、構わないと思

うが…】

- ・5分のプレゼンテーションでは、少しあっさりしすぎていると思う。特に、どのような形で、自分達の論文が公開されるのかは非常に気になるので、実際のリポジトリを見てみたい。
- ・リポジトリの検索機能はどうなっているのか。PubMedみたいな（フリーワード検索）なのか。使い慣れたPubMedとリポジトリの比較みたいなものがわかればいい。

[上記の流れで、JuNii や OAIster といった統合検索サイトのことを説明し、Google や GoogleScholar などを含め、検索サイトから来る利用者の方が、大学のリポジトリに直接来る利用者よりも多いことを説明したところ、実際にネットワークに繋いでリポジトリ（北大・HUSCAP）や JuNii を見ることとなった]

- ・ソフトはブログみたいだけど、違うのか。【似ているけど違います】
- ・以前、講義の資料（スライド資料）を欲しいと（学生に）言われて公開したら1000以上ダウンロードされた（講義した学生よりも非常に多い）ことがあるので、講義資料は有意義かもしれない。しかし、講義では、かなり他の著作物をいろいろ持ってきて、そのまま流すことがあるので、これ（リポジトリ）で公開したら、やっぱり良くないのでしょね。
- ・学内限定公開ということはできるのか。【原則公開するものだけれども、リポジトリ委員会で認めたらならば、そういうこともあるかもしれない。機能的には可能】
- ・いつ、旭川医科大学のリポジトリは公開になるのか。【来年の2月を予定している】

5.今後の予定

研修で作成したこのプレゼンテーションに、今回頂いた研究者からの意見、もっと詳しくするべき点を盛りこみ、10～15分くらいのプレゼンテーションに改定し、今後のリポジトリ広報活動の際に活用する予定です。